

「関脇目指す」

大相撲幕内力士

琴恵光関が決意表明

1/28 後援会が主催 延岡で激励会

この1年間、大相撲の幕内力士として健闘した琴恵光関(佐渡ヶ嶽部屋)の激励会が27日、延岡市のエンシティホテル延岡で行われた。主催は佐渡ヶ嶽部屋琴恵光後援会(稲田義美会長)。決意表明で来年は「関脇を目指す」と堂々と宣言、激励の大きな拍手を受けた。(3面に関連記事)



乾杯の首頭は神楽酒造の佐藤基永社長(27日、エンシティホテル延岡)

激励会に参加したのは延岡市や日向市の後援会員ら。200人以上の会員の中をゆつくりと笑顔で入場した。稲田会長は会員の目線からの支援に感謝。きょうは和気あいあいの中で琴恵光を激励してください。何でも話していただければ、本人も励みにすると思います」とあいさつ。

読谷山市長は龍巻被書に大勢の会員を前に、琴恵光関があいさつ。

稽古に精進 もつと強くなる

「たさんの方に応援をいただきました。きょうもたさんの方にきていただき、本当にありがとうございます。今場所は自分の納得できる相撲が取れず、本当に悔しい気持ちでした。この気持ちを持って、来年はもつと強くなります。応援をありがとうございます。」

対する義援金に感謝を述べた。花束贈呈があり、後援会の最年少会員藤田幸春君(3)が大きな花束を肩せた。

さらに、会場の一角に「目指します関脇 琴恵光 充憲」と大きな文字が書かれた大だきを天井まで掲げて決意表明。来年の精進を誓い、さらに大きな拍手を受けた。たごに書かれた文字は、琴恵光関の祖父・柏合邦治さん(元十両松恵山)の一番弟子、柏合家と縁の深い染矢恬さんの揮毫(きこう)。

永社長。西臼杵にもたくさんファンがいることを紹介し、全員で乾杯した。懇談に入り、琴恵光関は会場を回り、記念撮影も握手に応じ、各テーブルで歓声、笑顔が広がった。



「目指します関脇」の大だきを掲げ、決意表明した琴恵光関



花束を贈呈した藤田幸春君と笑顔の琴恵光関



緊張気味の幸春君だったが、琴恵光関に抱きかかえられて笑顔を見せた。



ひゅうが後援会の三輪会長が考案した「どすこい一本締め」で締めくくった

来る1年の無事祈る

行滕神社例祭

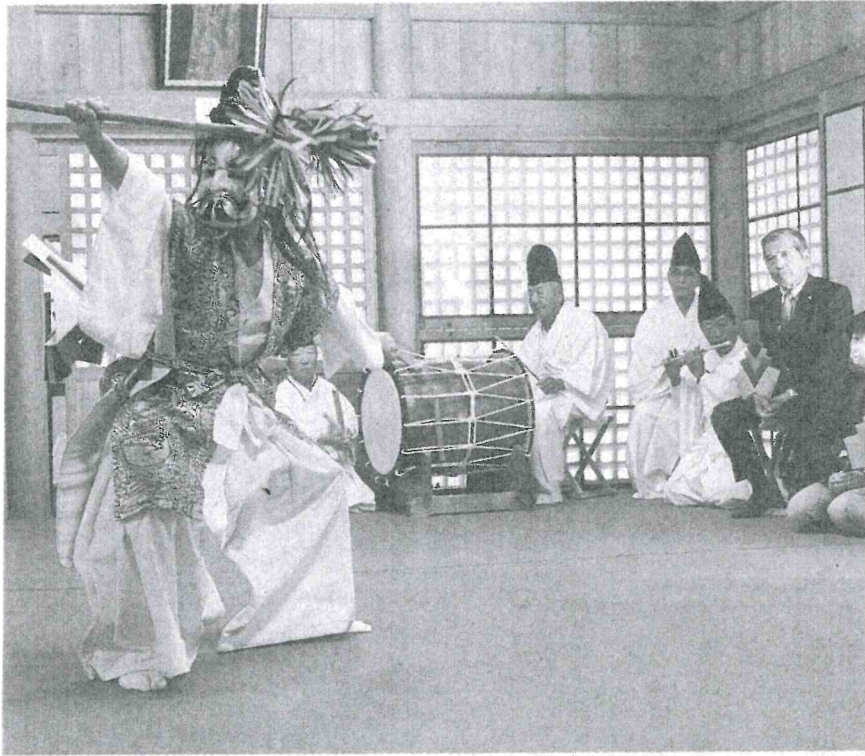
神楽、白太鼓踊りを奉納

延岡

延岡市行滕町の行滕神社(甲斐重興宮司)で17日、例祭があり、地域の人たちが参拝に訪れる中、神楽や行滕白太鼓踊りを奉納、来る1年の無事を願った。

瀧本福司氏子総代長によると、例祭は1年で最も大きな行事で、以前は毎年11月19日に行っていたが、近年はこの日に近い日曜日の恒例となっている。

この日は拝殿での神事に続き、尾崎神楽保存会が鎮守の舞「幣の手舞」「三番荒神の舞」の3番を奉納。このうち「三番荒神の舞」には、5歳から神楽を舞う甲斐有記さ



ん(東海中3年)が、1人舞の大役を務めた。甲斐さんの力強い舞に、訪れた人たちは引き込まれるように見入っていた。

また、境内では地元の人たちでつくる行滕白太鼓踊り保存会が、息の合った踊りを披露。高校生から75歳までの会員に



境内で披露された白太鼓踊り

よるダイナミックな踊り(らい)もあり、来賓や地元に大きな拍手が送られた。この後、直会(なお令和最初の例祭を祝った。